



【柑橘】 *下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除

6月中～下旬

- 黒点病 シマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓
【温州みかん】収穫30日前 4回 【温州ミカンを除く】収穫90日前 4回
- ミカンハダニ アタックオイル 又は ハーベストオイル 又は スプレーオイル
150倍 666ml/水100㍓
- カイガラムシ類
- シジメダニ ハチハチフロアブル(劇) 収穫前日 2回 2,000倍 50ml/水100㍓ 又は
アザミウマ類 コテツフロアブル(劇) 収穫前日 2回 6,000倍 16ml/水100㍓
(発生園に散布)

摘果 (大津・青島) 大津・青島は大玉果になりやすいので、隔年交互結実をさせてなり込ませます。表年の樹はこの時期の摘果を控え、10月下旬からの仕上げ摘果で上を向いた極大果だけを摘果しましょう。裏年の樹は7月中に全摘果しましょう。

摘果 (不知火・はるみ) 知火・はるみは樹冠上部に着果させると樹勢の低下につながります。生理落果が始まったら樹勢強化の為、樹冠上部1/3～1/4は全摘果し樹勢の強化を図りましょう。

【レモン】 *下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除

6月中旬～下旬

- 黒点病 シマンダイセン水和剤 収穫90日前 4回 600倍 166g/水100㍓
又はペンコゼブ水和剤 収穫90日前 4回 600倍 166g/水100㍓
- ミカンハダニ アタックオイル 又は ハーベストオイル 又は スプレーオイル
150倍 666ml/水100㍓
- アザミウマ類 コテツフロアブル(劇) 収穫前日 2回 6,000倍 16ml/水100㍓
- シジメダニ
- カイガラムシ類

※カイガラムシ類が前年多発した園ではアプロードエースフロアブル1,000倍又はスタークル顆粒水溶剤2,000倍を6月上旬に散布しましょう。アプロードエースフロアブルとスタークル顆粒水溶剤はアブラムシ類にも効果があります。スタークル顆粒水溶剤はミカンハモグリガにも効果があります。

施肥 6月上中旬 夏肥施用 特選みかん配合655 160kg/10a

【うめ】 *下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除

6月上中旬 (漬け梅に散布)

- 黒星病・すす斑病 インダーフロアブル 5,000倍 収穫前日 2回 20ml/水100㍓

収穫 収穫後の取扱いは丁寧におこないましょう。当たり傷はその時は目立たなくとも後日変色し、出荷先や購入者からのクレームの原因となります。

(梅干用) 果実表面の毛じが半分以上脱落し、果面に光沢が出てきた頃になります。

1 樹を1度に収穫せず期間を空けて2回以上にわけ、未熟果は出荷をしないようにしましょう。

【キウイフルーツ】

病害虫防除

6月～8月 ○カメムシ発生時 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 収穫前日 3回 50g/水100㍓

6月中旬 ○果実軟腐病 トップジンM水和剤 1,000倍 収穫前日 5回 100g/水100㍓
又は フロンサイドSC 2,000倍 収穫30日前 1回 50ml/水100㍓

○キウイハダニ フェニックスフロアブル 4,000倍 収穫7日前 3回 25ml/水100㍓

夏肥 6月上旬 キウイ配合 80kg/10a

初期肥大促進のために重要。着果が多くなる場合は、20～40kg増量します。

摘果 2回以上に分けて摘果しましょう。

- ・荒摘果 6月上～中旬 奇形・扁平・傷・病害・小玉果を除去。荒摘果はできるだけ早く行う。
- ・仕上げ摘果 6月下～7月上中旬 奇形果・傷果・小玉果から摘果する。(1㎡あたり25着果を摘果)

——【か き】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

病害虫防除 6月上旬～中旬

○カキノヘタムシガ フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 収穫7日前 2回 25g/水100㍓

○落葉病・うどんこ病・炭疽病 スコア顆粒水和剤 3,000倍 収穫前日 3回 33g/水100㍓

追肥 6月中下旬 柿配合 50kg/10a

摘果 生理落果が終了する7月中旬までに1結果母枝2～3果にしましょう。

——【水 稲】——

水管理 田植え後、4～5日は水温を保つため深水とします。(掛け流しはしない)
以降は3～5cm前後の深さを保ちましょう。

雑草防除 主な除草体系(例)

通常	一発処理剤(トップガンR1 [㍓] 粒剤など)
雑草多発田	一発処理剤+後期剤(クリンチャーバスME液剤 など)
ノビエ多発田	一発処理剤+中・後期剤(ヒエクリーン1 [㍓] 粒剤、クリンチャーバスME液剤、クリンチャーEW など)
コナギ多発田	一発処理剤+後期剤(バサグラン粒剤 など)
クログワイ多発田	クログワイに効果のある一発処理剤(トップガンR1 [㍓] 粒剤など)+後期剤(バサグラン粒剤、クリンチャーバスME液剤など)
藻類多発田	一発処理剤+モゲトン粒剤

* 水稲の一発処理剤(および初期剤)は、移植後日数の早い時期に散布するよう心がけ、散布後7日間は止め水にし、湛水状態を保ちましょう。

* 水稲除草剤の散布時期は薬剤によって異なるので、ラベルをよく確認しましょう。

——【お 茶】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

二番茶の摘採 一番茶摘採から45日後が目安となります。

病害虫防除 ※安全使用日数や周辺の摘採日程に十分留意し防除しましょう。

6月上旬～6月中旬 (二番茶摘採園)

○チャノド カサミ }
チャノホソガ } コテツフロアブル(劇) 2,000倍 摘採7日前 2回 50ml/水100㍓
カサミ }
チャノコサミ }

※チャトゲコナジラミを対象とする場合は6月上旬に散布する。

○チャノホソガ多発時 カスケード乳剤 4,000倍 摘採7日前 2回 25ml/水100㍓

○もち病・炭疽病 オンリーワンフロアブル 3,000倍 摘採7日前 2回 33ml/水100㍓

※新梢枯死症対策として使用する場合は2,000倍 50ml/水100㍓とします。

6月下旬～7月上旬

○輪斑病・新梢枯死症 カスミンボルドー 1,000倍 摘採14日前 2回 100g/水100㍓

*剪整枝後、出来るだけ早く(3日以内)散布しましょう。

施肥

(一番茶摘採のみの場合) 6月下旬 なたね粕 100kg/10a

(二番茶摘採を含む場合) 二番茶摘採15日前 硫安 40kg/10a

二番茶摘採後 なたね粕 100kg/10a

一番茶の芽出し肥を多く施用した方は、二番茶の芽出し肥を減らしてください。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。